

平成17年3月22日
交通政策審議会
第13回港湾分科会

資料2

環境部会の審議状況について

国土交通省港湾局

審議経過および今後のスケジュールについて

- 3月19日 港湾分科会にて環境部会の設置を承認
- 6月29日 第1回環境部会
諮問
- 9月7日 第2回環境部会
骨子案について
- 11月9日 第3回環境部会
第1章から第3章の取りまとめについて
関係者ヒヤリング（東京都、世界自然保護基金ジャパン）
- 11月26日 港湾分科会へ報告
- 12月8日 第4回環境部会
関係者ヒアリング
（川崎市、ラムサール条約事務局、日本郵船株）
- 1月31日 第5回環境部会
関係者ヒアリング
（広島県、太平洋セメント株、オーシャンファミリー海洋自然体験センター※）
※海辺の自然体験を通じて環境教育を行っている団体
事務局案の提示・審議
- 2月18日 意見募集
～3月3日
- 3月22日 港湾分科会へ報告
- 3月29日 第6回環境部会
答申

交通政策審議会港湾分科会

環境部会委員名簿

〔五十音順〕

氏 名	役 職 名
磯部 雅彦	東京大学大学院教授
上村 多恵子	(社) 京都経済同友会常任幹事
岡島 成行	(社) 日本環境教育フォーラム理事長
岡田 光正	広島大学大学院工学研究科長・工学部長
黒川 和美	法政大学経済学部教授
黒田 勝彦	神戸大学工学部教授
佐藤 友美子	(株) サントリー不易流行研究所部長
白石 真澄	東洋大学経済学部助教授
瀬田 信哉	(財) 国立公園協会理事長
永田 勝也	早稲田大学理工学部教授
東 恵子	東海大学短期大学部教授
細田 衛士	慶應義塾大学経済学部長
森野 美徳	(社) 日本経済研究センター研究開発部主任研究員
山内 弘隆	一橋大学大学院商学研究科長・商学部長

今後の港湾環境政策の基本的な方向について(案)

答申案骨子

第1章 港湾環境政策の見直しの必要性

港湾の環境の新たな課題

- ①従来の環境施策の限界
- ②環境問題の多様化
- ③多様な主体との合意形成



第2章 基本理念

- (1) 自然環境に優しく美しいみなとへ
- (2) 都市と地球の環境に貢献するみなとへ
- (3) 市民とともに歩むみなとへ



第3章 今後の港湾環境政策の基本的な方向

- (1) 良好な環境の積極的な保全・再生・創出
- (2) 多様化する環境問題への対応
- (3) 環境施策の実施手法の見直し・充実



第4章 実現に向けた具体的方策

- (施策1) 良好な環境の積極的な保全・再生・創出
- (1) 劣化・喪失した自然環境の再生・創出
 - (2) 市民のにぎわいの場となる美しいみなとの実現
 - (3) 民間事業者等との連携による環境整備

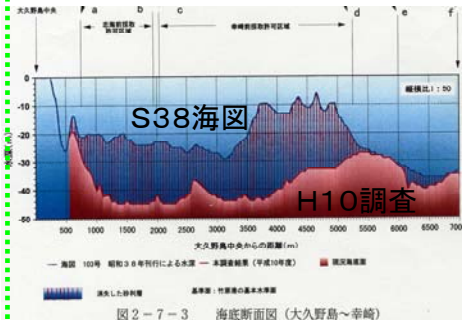
- (施策2) 多様化する環境問題への対応
- (1) 地球温暖化対策及び大気汚染対策
 - (2) 循環型社会の形成
 - (3) 防災に寄与する環境整備

- (施策3) 環境施策の実施手法の見直し・充実

「(施策1)良好な環境の積極的な保全・再生・創出」の施策例

○深掘跡埋め戻しによる青潮等対策

過去の土砂採取により海底には大規模な窪地が点在しており、青潮の原因となっているため、窪地を埋め戻していく必要がある。



■深掘跡の事例(瀬戸内海)

○良好な港湾景観の形成

港湾計画において良好な港湾景観を形成する区域を設定するなど、港湾管理者や立地企業等が協働して、良好な景観形成を進めていく必要がある。



■良好な景観形成に取り組んだ事例(北九州港)

○ゴミ、自動車等の投棄対策

ゴミや自動車等の不法投棄を防止するためには、常に市民の目が行き届くような港湾空間を形成することが重要である。



■自動車の不法投棄の事例(川崎港)

○民間事業者の施設等の利用転換促進

民間事業者の所有する施設・用地等を活用・利用転換して、パブリックアクセス可能な緑地等の整備、自然再生・創造のための事業を促進する。

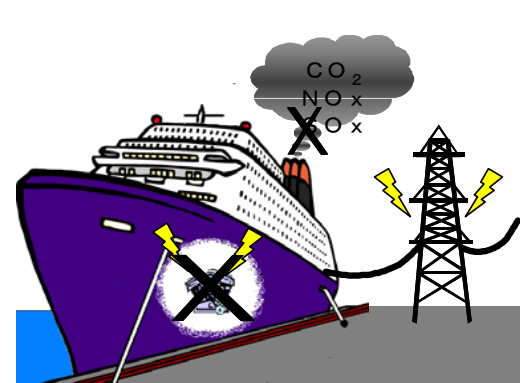


■企業用地の水際線開放計画の事例(川崎港)

「(施策2)多様化する環境問題への対応」の施策例

○接岸中の船舶のアイドリングストップ

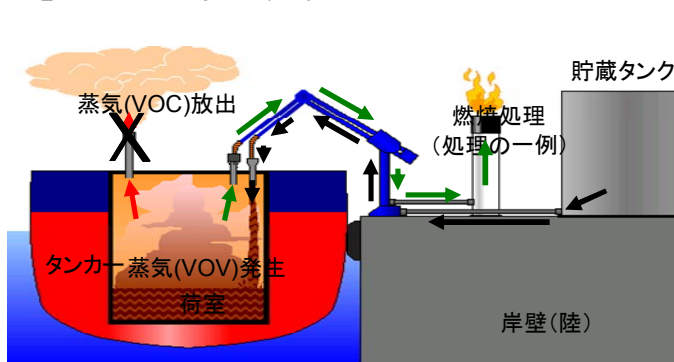
港湾に係留中の船舶のアイドリングストップを可能とするよう、船舶に電力を供給するシステムを港湾側に構築する必要がある。



■船舶のアイドリングストップのイメージ図

○石油類の積み出し港湾におけるVOC対策

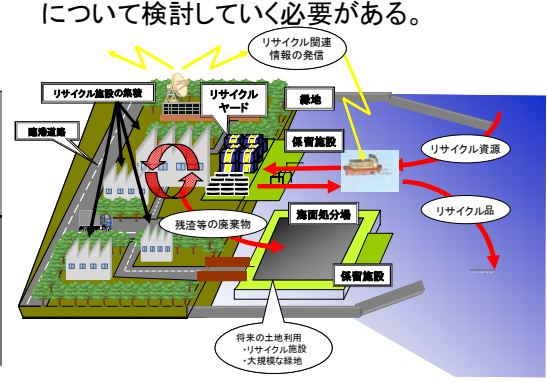
「海防法」の改正を受け、今後、放出規制港湾の指定や港湾における排出ガス処理施設の整備を進めていく必要がある。



■港湾におけるVOC対策のイメージ図

○リサイクルポートの形成

港湾において循環資源を効率的に輸送するための保管施設を整備するとともに、低廉・円滑で信頼性の高い国際静脈物流ネットワークの構築について検討していく必要がある。



■リサイクルポートのイメージ図

「(施策3)環境施策の実施手法の見直し・充実」の施策例

○港湾計画における環境保全の充実

環境の整備及び保全のさらなる推進の観点から港湾環境計画の内容を港湾計画に取り込み、目指すべき将来像、環境保全の方針、必要な環境施策等の記載を充実することが必要である。

港湾計画

- 港湾法に基づき、すべての重要港湾の港湾管理者が策定
- 港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する地域の保全に関する計画

港湾環境計画

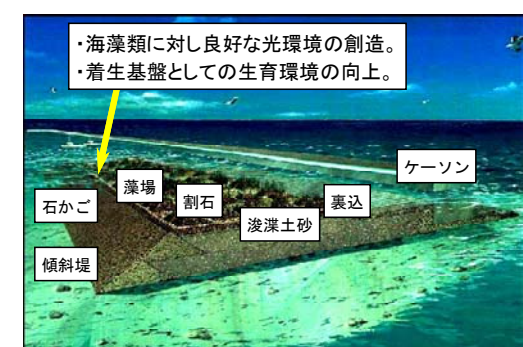
- 平成6年に策定したエコポート政策において提唱し、14港湾で策定済み。
- 港湾環境の基本方針、主要な環境施策・配慮、管理と推進体制等について記載。

港湾計画において環境に係るビジョンの明確化

■港湾計画における環境保全の充実のイメージ図

○設計、施工、維持・管理の際の環境配慮

港湾の施設の設計、施工、維持・管理の各段階において標準的に環境配慮を行い、質の高い港湾の施設を整備していくため、港湾の施設の技術上の基準を改正することが必要である。



■環境に配慮した港湾施設のイメージ図

○防災に寄与する環境整備

環境の向上と防災機能の強化の双方に寄与する緑地や海浜等の環境整備施設の整備を行うことが重要である。



■防災拠点緑地のイメージ図